

線量がわからない場合も使用装置と条件(管電圧・管電流・時間等)を医師か技師からもらいます。このページは足りなくなったらコピーして使います。

徳川幸弘「医療被ばく説明マニュアルの紹介と活用方法」より抜粋 『日本放射線技師会雑誌Vol.51, No.621「医療被ばく特集号」』 2004

撮影部位	エックス線車純撮影線)	CT(エックス線)
頭部	3.5	25 ~ 50
頸部	0.23	
胸部正面	0.2	15 ~ 20
乳房	2.5	
腹部	1.3	25 ~ 30
上部消化管	(胃透視) 50 ~ 100	
下部消化管	(注腸) 20 ~ 200	
骨盤	1.8	25 ~ 30
股関節	1.6	
手	0.04	
膝関節	0.17	
血管造影 (IVR)	500 ~ 1,500	
核医学 (ガンマ線)	0.33 ~ 10.4	
PET (ガンマ線)	3.5 ~ 7.0	
PET - CT		PETブラスCTの線量

検診の被ばく線量(皮膚面)参考値(単位:mgY)

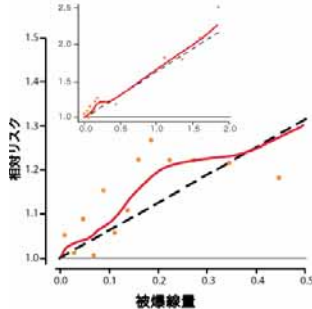
年月日	医療機関・科名	検診・治療名(部位・方向)	被ばく線量

名前 年 月 日生れ

私の医療被ばく記録

被曝線量と発がんリスクの関係

被曝線量ゼロの群の固形癌リスクを1とした場合の被曝者の相対がんリスク。右の図は0から2シーベルトまで、下は上の図の0から0.5シーベルトまでの部分を拡大したもの。点線直線は0から2シーベルトの線量域から外挿した直線型リスク推定。ある線量以下ではリスクがなくなるという“しきい値”は見つかっていません。



公衆の年間被ばく限度は1ミリシーベルトです。

エックス線あるいはガンマ線を全身に1ミリシーベルト浴びるとどうなるでしょう？ 計算方法により随分違いますが、1万人当たりのがん死数は0.5人から3.7人と考えられています。

医療被ばく記録手帳

制作・お問い合わせ先 高木学校

〒164-0003 東京都中野区東中野1-58-15 原子力資料情報室内
電話 03(5332)3227
FAX 03(5330)9530
Email: takasas@jca.apc.org / Web: www.jca.apc.org/takasas

市民版 医療被ばく記録手帳

病院、診療所、検診車、保健所、歯医者等で診断のために放射線を浴びることがあります。放射線被ばくによって、数年か数十年後にがんをはじめとする疾患にかかる可能性は、線量に比例して増加すると考えられています。被ばくを必要最小限に抑えるために、どの位被ばくしているかを知ることは大切です。検査を受けた場合には、医師あるいは技師に、線量を聞き、この手帳に記録しましょう。検査を受ける前に以下のことを確かめる事は重要です。

- 1. 放射線検査は本当に必要か。
- 2. その検査のためには放射線が最適か。
- 3. 検査が重複していないか。
していれば、前の検査結果を使えないか。